

平成30年4月17日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査結果について、本市の概要をお知らせします。なお、本調査には、全ての米子市(学校組合)立小・中学校が参加しています。

1 全国の状況

本調査は、国語、算数・数学、理科の3教科で、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象として実施されました。3年ぶりに行われた理科では、知識・技能等活用の問題に課題が見られました。国語、算数・数学についても知識・技能等活用の問題が苦手な傾向は改善しませんでした。全体的に正答率の低い地域と全国平均の差は小さく、学力の底上げ傾向が引き続き見られました。また、併せて実施された児童生徒質問紙では、自己肯定感を問う質問で肯定的に回答した児童生徒の割合が今年度は約8割となり、引き続き増加傾向が見られました。

2 米子市の状況

(1)教科の概要

<小学校6年生>

【国語】・『主として「知識」に関する問題』『主として「活用」に関する問題』ともに、全国平均とほぼ同じ状況でしたが、国語A「話すこと・聞くこと」と国語B「読むこと」の領域については、やや上回る結果でした。
 【算数】・『主として「知識」に関する問題』『主として「活用」に関する問題』ともに、全国平均を下回る状況でした。
 ・算数A「数量関係」と、算数B「図形」「数量関係」の領域に課題が見られました。
 【理科】・全体的に全国平均を下回る状況でした。
 ・「物質」の領域に課題が見られました。

【国語A】(主として「知識」に関する問題)

区分	国語A	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		70	71	70.7
領域	話すこと・聞くこと	91.9(B)	90.8	90.8
	書くこと	72.3(C)	72.5	73.8
	読むこと	73.8(C)	73.0	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.3(C)	67.4	67.0

【国語B】(主として「活用」に関する問題)

区分	国語B	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		54	55	54.7
領域	話すこと・聞くこと	63.9(C)	64.6	64.6
	書くこと	44.5(C)	45.8	45.6
	読むこと	52.4(B)	52.9	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			

【算数A】(主として「知識」に関する問題)

区分	算数A	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		61	62	63.5
領域	数と計算	59.8(C)	59.8	62.3
	量と測定	70.9(C)	72.1	72.7
	図形	55.1(C)	54.8	56.9
	数量関係	55.2(D)	56.6	60.1

【算数B】(主として「活用」に関する問題)

区分	算数B	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		49	50	51.5
領域	数と計算	56(C)	57.9	58.4
	量と測定	50.2(C)	51.2	52.4
	図形	56.1(D)	56.9	59.9
	数量関係	42.7(D)	43.8	45.1

【理科】

区分	理科	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		58	60	60.3
領域	物質	56.5(D)	58.0	59.8
	エネルギー	50.6(C)	52.6	53.1
	生命	72.2(C)	73.9	73.6
	地球	47.4(C)	48.5	49.5

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均を下回り-3ポイントまでをC、-3ポイントを下回るものをDで表記しています。

※全体の平均正答率(市・県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

〈中学校3年生〉

【国語】・『主として「知識」に関する問題』『主として「活用」に関する問題』ともに、全国平均をやや上回る状況でした。
 【数学】・『主として「知識」に関する問題』は全国平均をやや上回り、『主として「活用」に関する問題』はやや下回る状況でした。
 ・数学A「資料の活用」の領域は、全国平均を大きく上回る状況でした。
 【理科】・全体的に全国平均をやや下回る状況でしたが、「生物的領域」はやや上回る状況でした。

【国語A】(主として「知識」に関する問題)

区分	国語A	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		76.6	76	76.1
領域	話すこと・聞くこと	74.4(C)	74.2	75.2
	書くこと	73.6(C)	72.7	73.9
	読むこと	77.7(B)	75.5	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2(B)	77.3	76.5

【国語B】(主として「活用」に関する問題)

区分	国語B	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		61.6	60	61.2
領域	話すこと・聞くこと	75.2(C)	75.8	76.6
	書くこと	31.5(B)	29.7	31.3
	読むこと	54.6(B)	52.3	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.2(B)	46.9	49.2

【数学A】(主として「知識」に関する問題)

区分	数学A	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		66.7	66	66.1
領域	数と式	71.6(B)	70.6	71.1
	図形	68.8(C)	68.8	69.1
	関数	56.8(B)	55.2	55.5
	資料の活用	68.9(A)	63.3	63.5

【数学B】(主として「活用」に関する問題)

区分	数学B	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		46.7	45	46.9
領域	数と式	51.5(B)	49.8	51.4
	図形	47.4(B)	44.9	46.7
	関数	52.1(C)	50.0	52.8
	資料の活用	38.9(B)	37.3	38.0

【理科】

区分	理科	平均正答率(%)		
		米子市	県	全国
全体		65.9	66	66.1
領域	物理的領域	74.2(C)	73.8	74.4
	化学的領域	64.2(C)	64.1	65.0
	生物的領域	72.7(B)	73.0	72.5
	地学的領域	57.6(C)	57.5	57.8

※米子市の平均正答率は、全国平均との差が+3ポイント以上をA、全国平均値以上+3ポイントまでをB、全国平均を下回り-3ポイントまでをC、-3ポイントを下回るものをDで表記しています。
 ※全体の平均正答率(県)は、小数点以下を四捨五入して、整数で表しています。

(2)本年度、中学校3年生の平成27年度(小学校6年生時)と平成30年度(中学校3年生時)の平均正答率の比較

平成27年度(小学校6年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語A	69.9	70.0	-0.1
国語B	66.8	65.4	+1.4
算数A	73.3	75.2	-1.9
算数B	43.4	45.0	-1.6
理科	58.2	60.8	-2.6



平成30年度(中学校3年生時)の平均正答率			
	米子市	全国	差(米子市-全国)
国語A	76.6	76.1	+0.5
国語B	61.6	61.2	+0.4
数学A	66.7	66.1	+0.6
数学B	46.7	46.9	-0.2
理科	65.9	66.1	-0.2

[主な傾向]

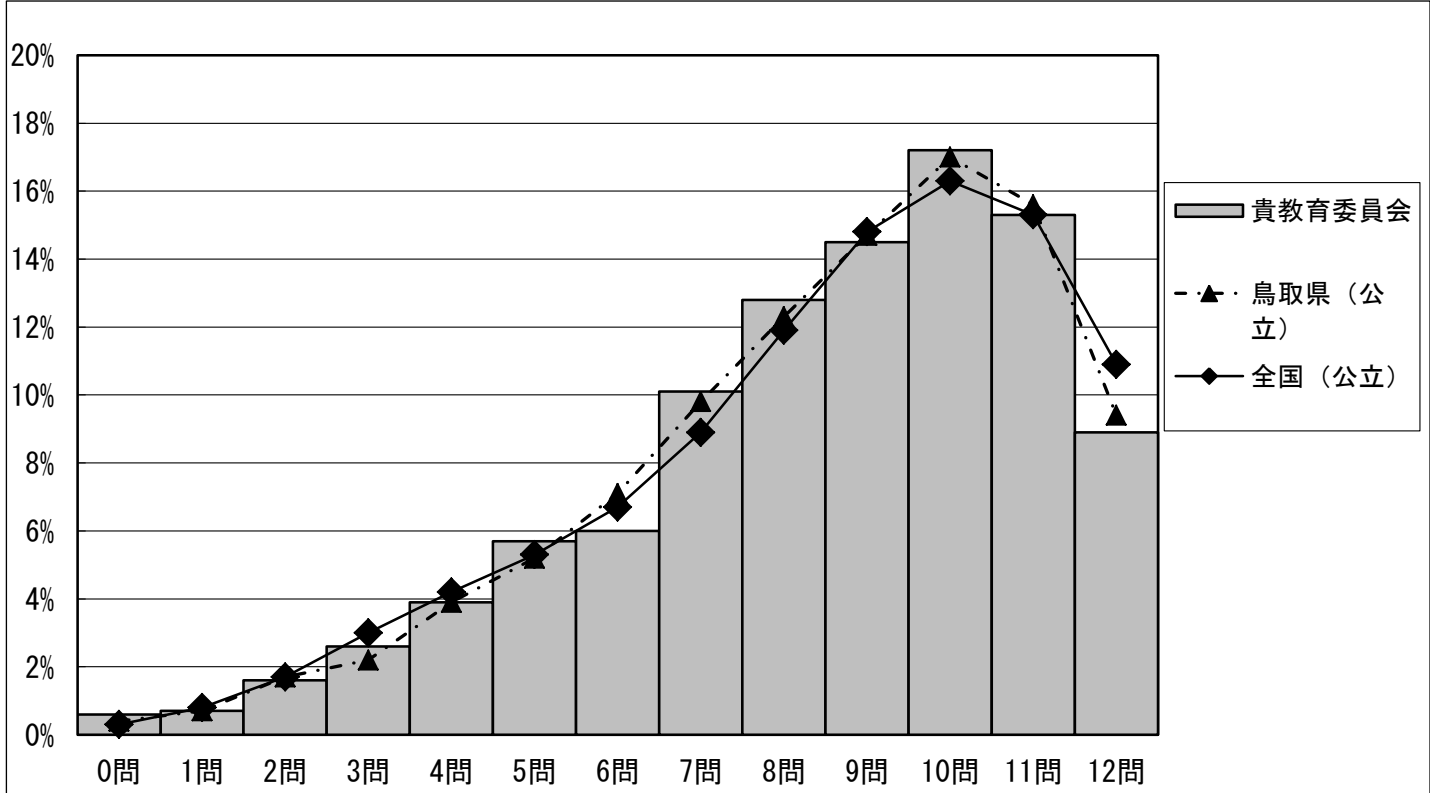
○平成30年度(中学校3年生時)の平均正答率の差(米子市-全国)は、平成27年度(小学校6年生時)のそれと比べると以下のような状況でした。

- ・国語A: マイナスからプラスの状況になりました。
- ・国語B: プラスの状況でしたが、差が縮まり、課題が見られました。
- ・算数・数学A: マイナスからプラスの状況になりました。
- ・算数・数学B: マイナスの状況でしたが、差が縮まりました。
- ・理科: マイナスの状況でしたが、差が縮まりました。

(3) 正答数分布に見る本市と全国との比較

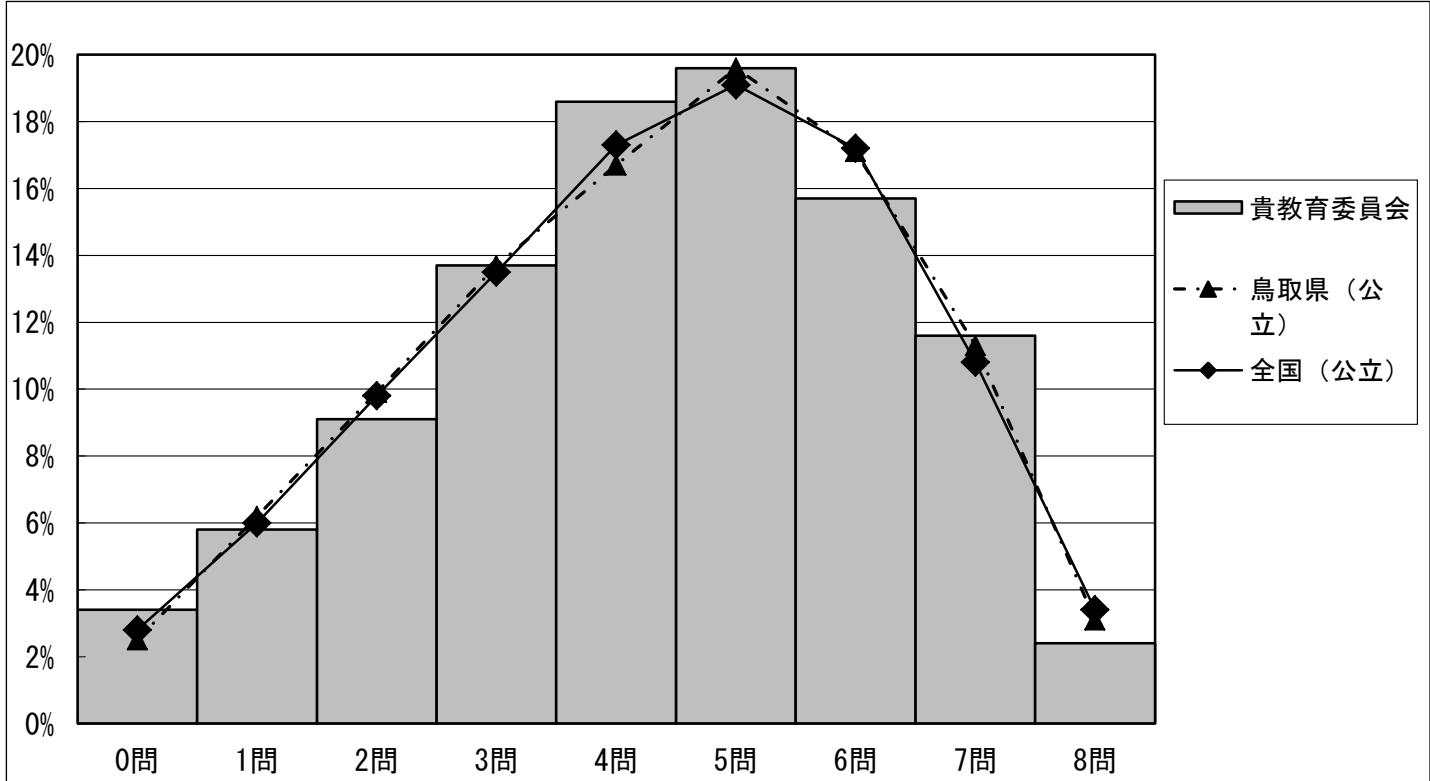
正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

【小学校6年 国語A】



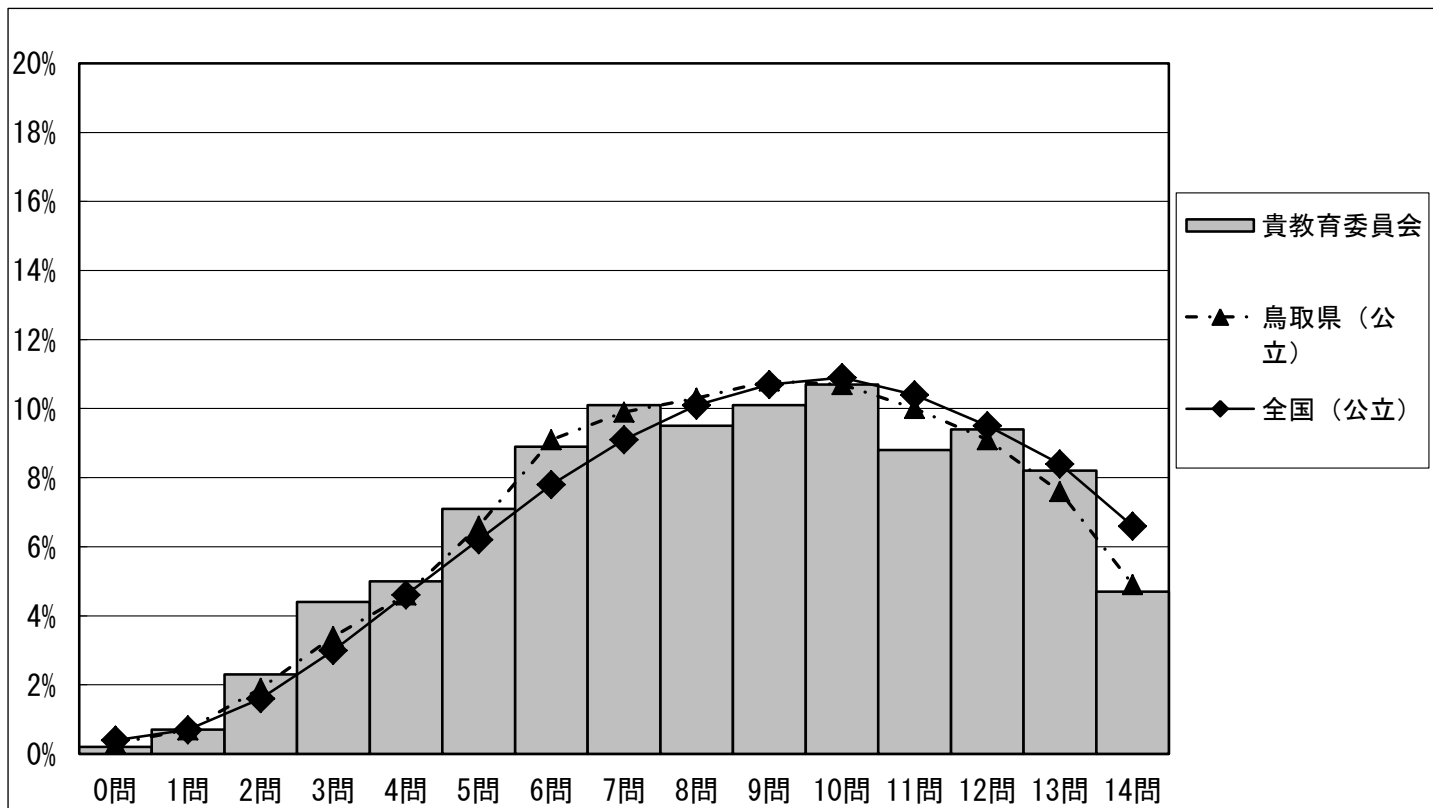
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国とほぼ同じです。

【小学校6年 国語B】



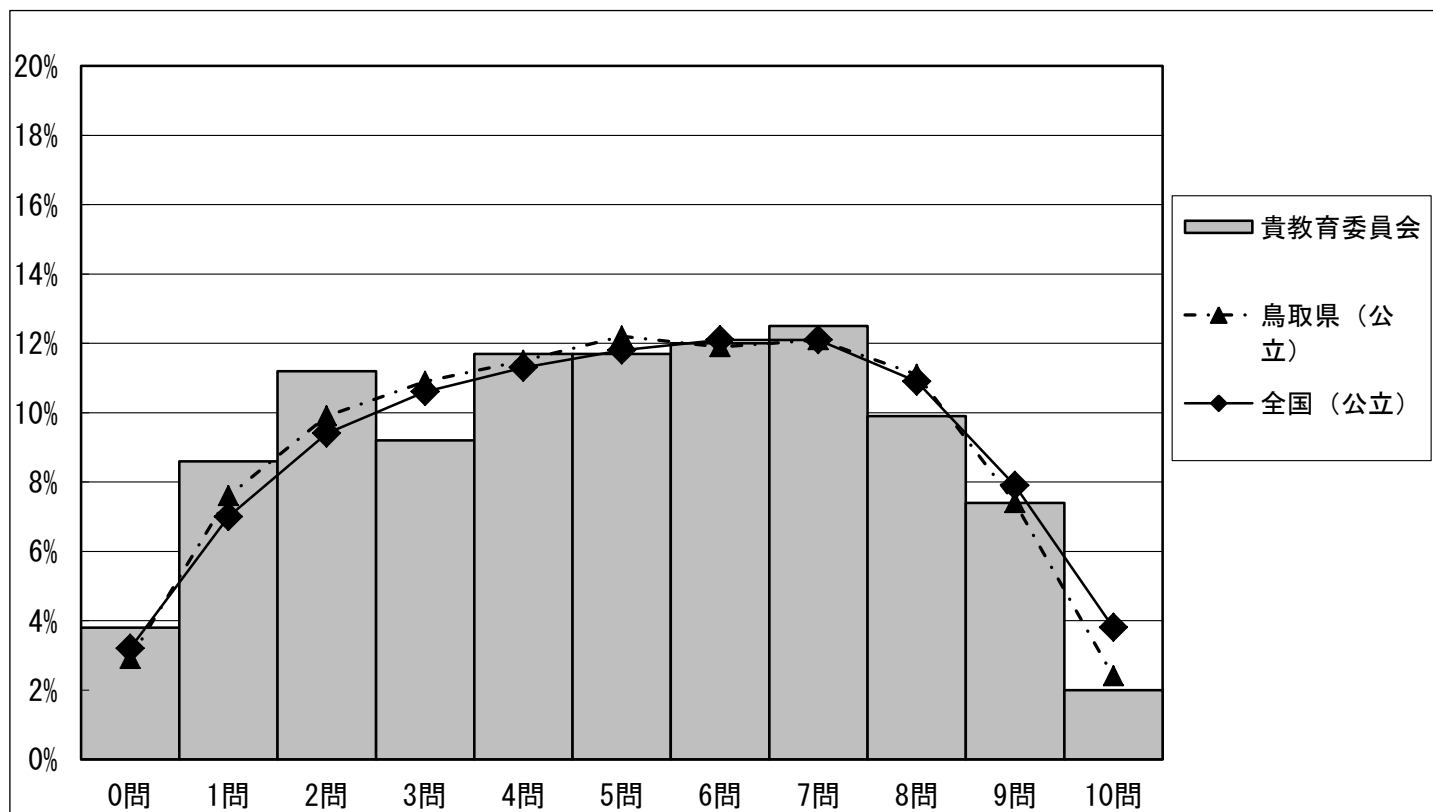
※平均正答率は、全国平均とほぼ同じ状況でした。
 ・正答数の分布は、全国とほぼ同じです。

【小学校6年 算数A】



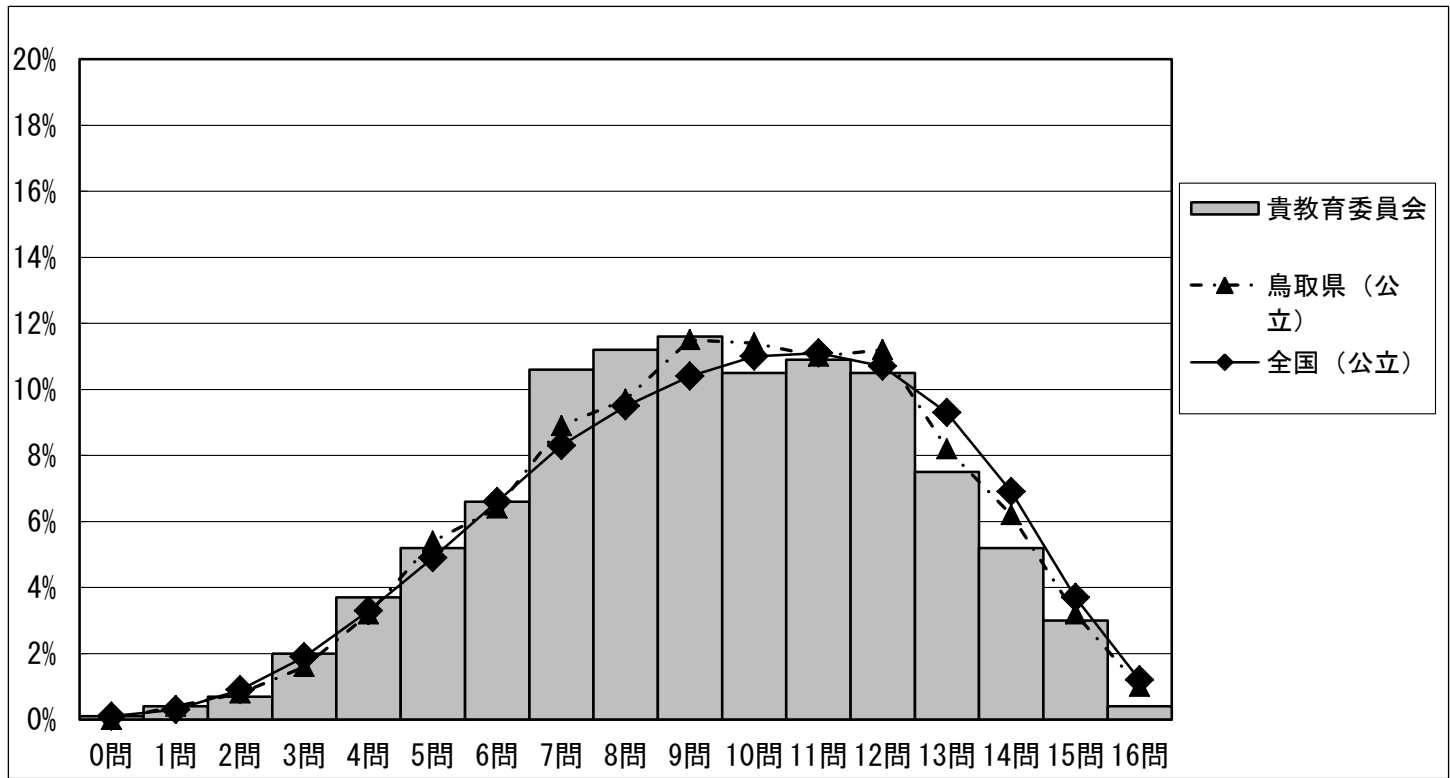
※平均正答率は、全国平均を下回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ11問以上正答した児童の割合が低く、7問以下の児童の割合が高い状況が見られます。

【小学校6年 算数B】



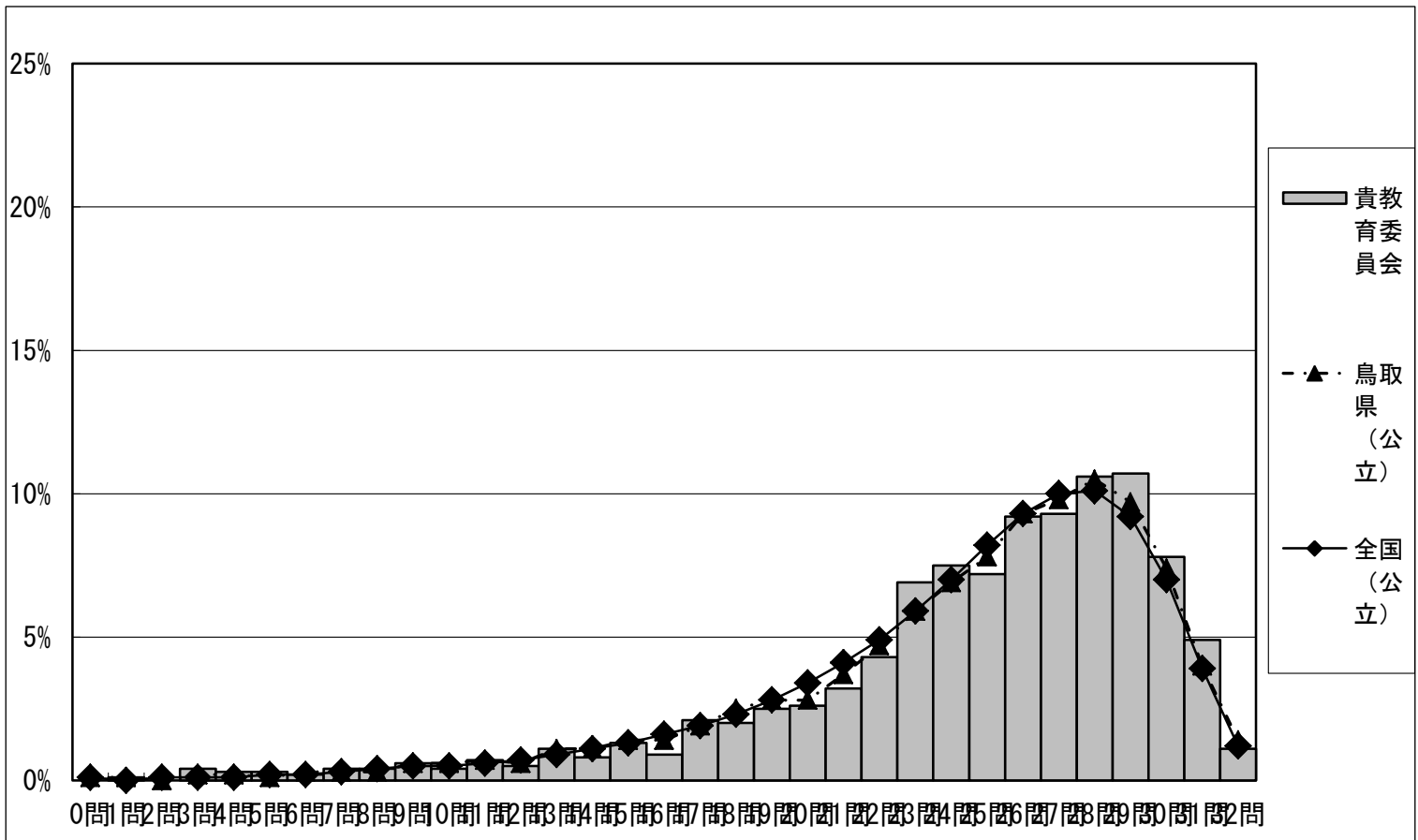
※平均正答率は、全国平均を下回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ8問以上正答した児童の割合が低く、2問以下の児童の割合が高い状況が見られます。

【小学校6年 理科】



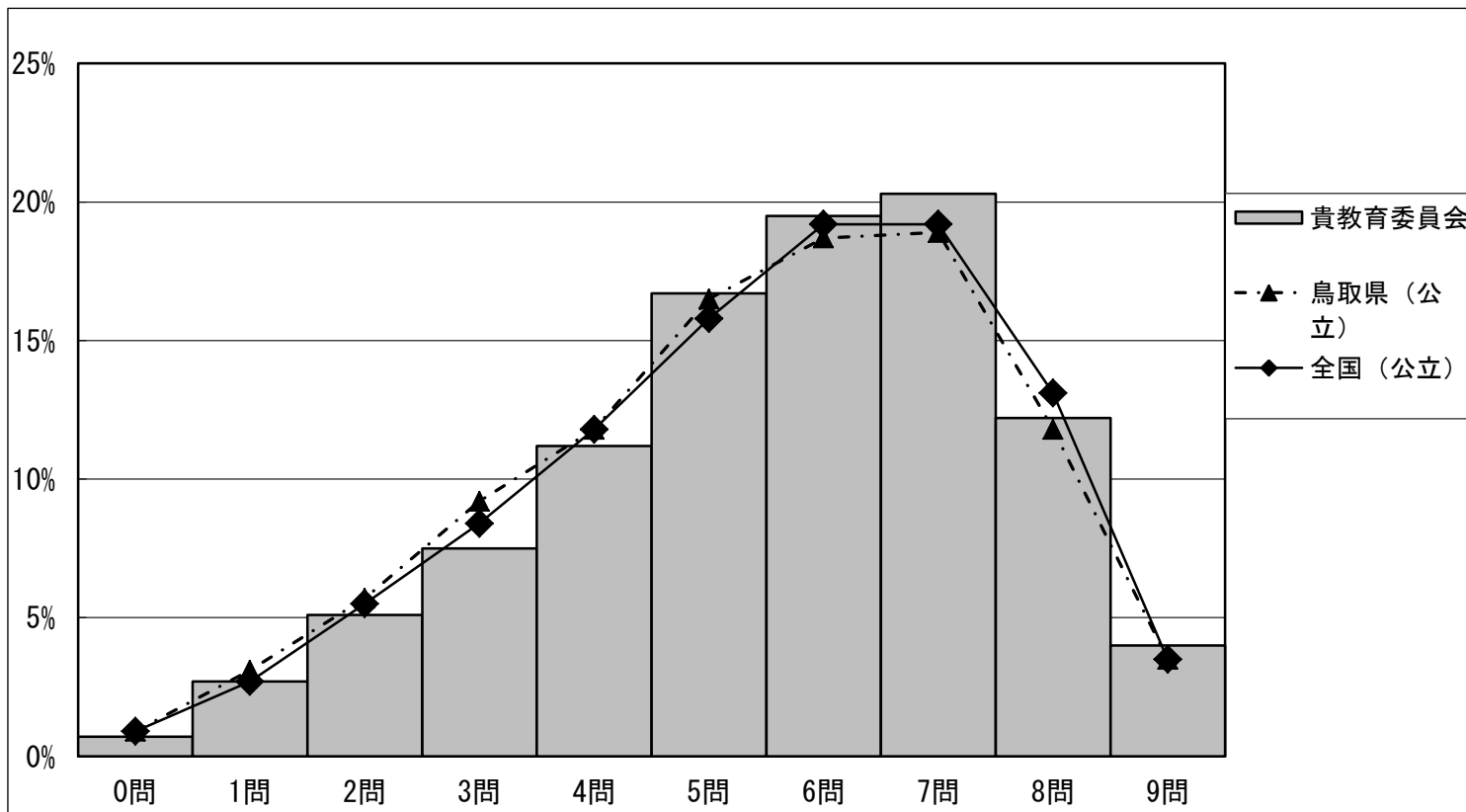
※平均正答率は、全国平均を下回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ13問以上正答した児童の割合が低く、7～9問正答した児童の割合が高い状況が見られます。

【中学校3年 国語A】



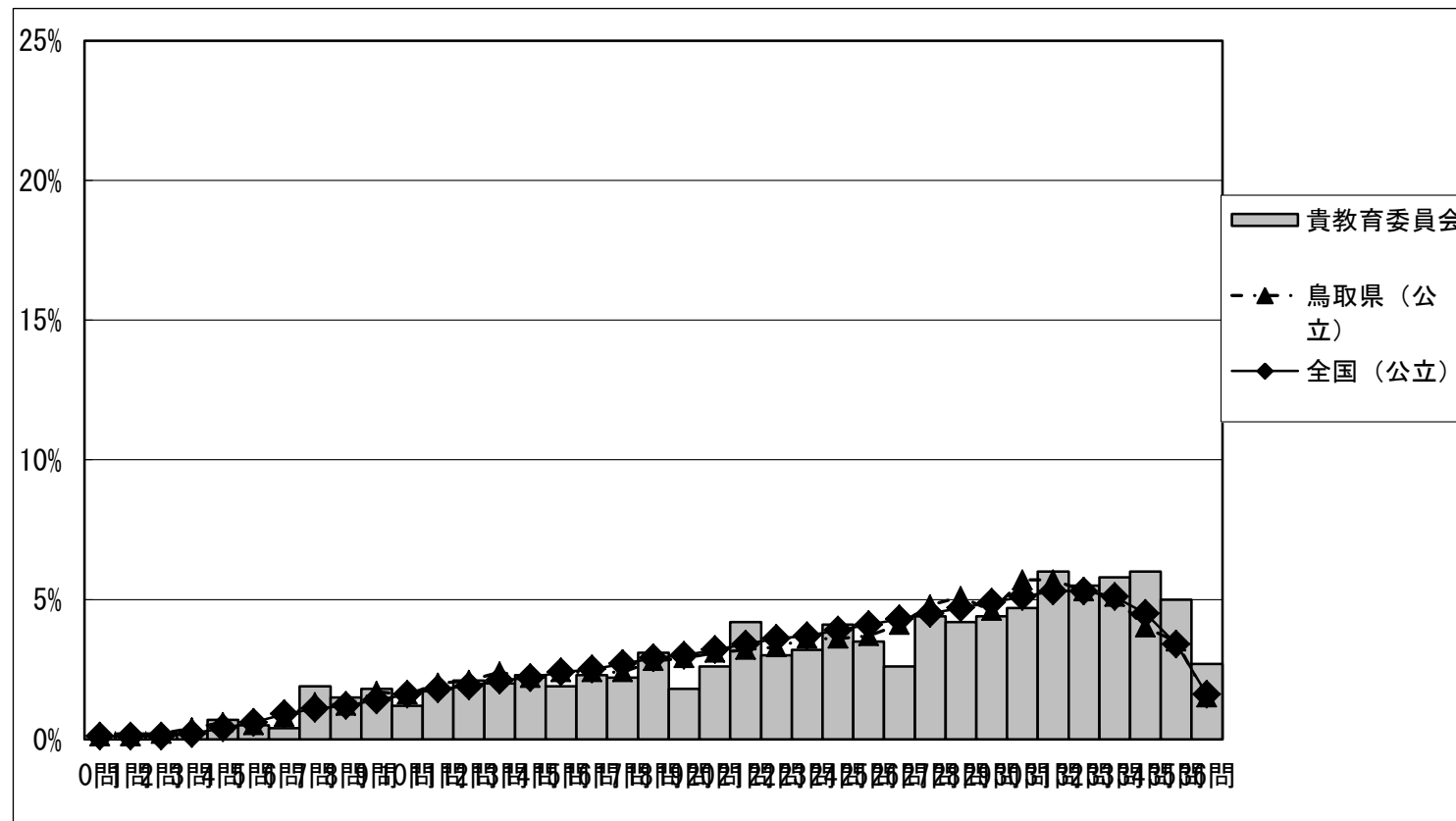
※平均正答率は、全国平均をやや上回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ28問以上正答した生徒の割合が高い状況が見られます。

【中学校3年 国語B】



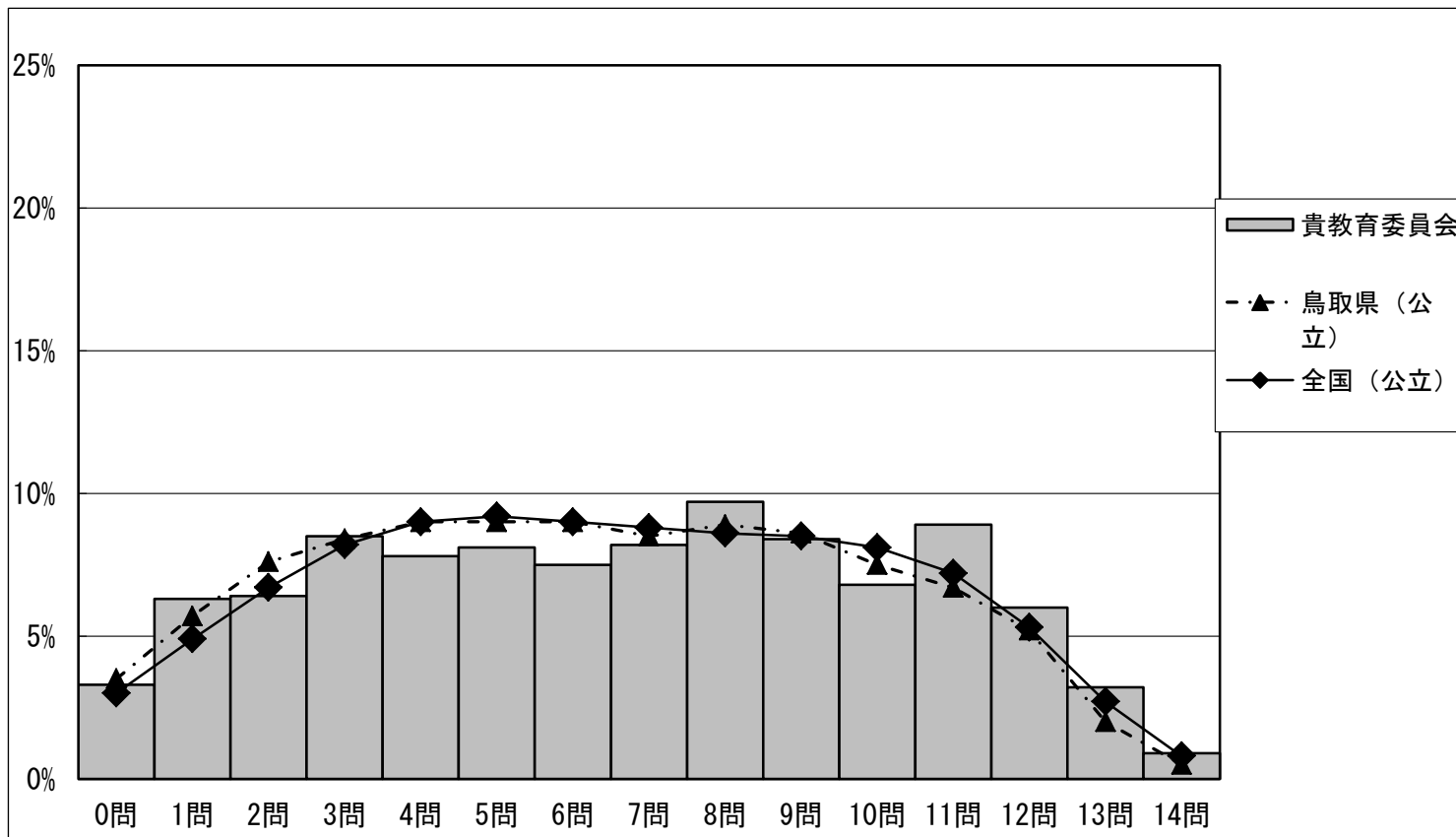
※平均正答率は、全国平均をやや上回っています。
 ・正答数の分布は、全国とほぼ同じです。

【中学校3年 数学A】



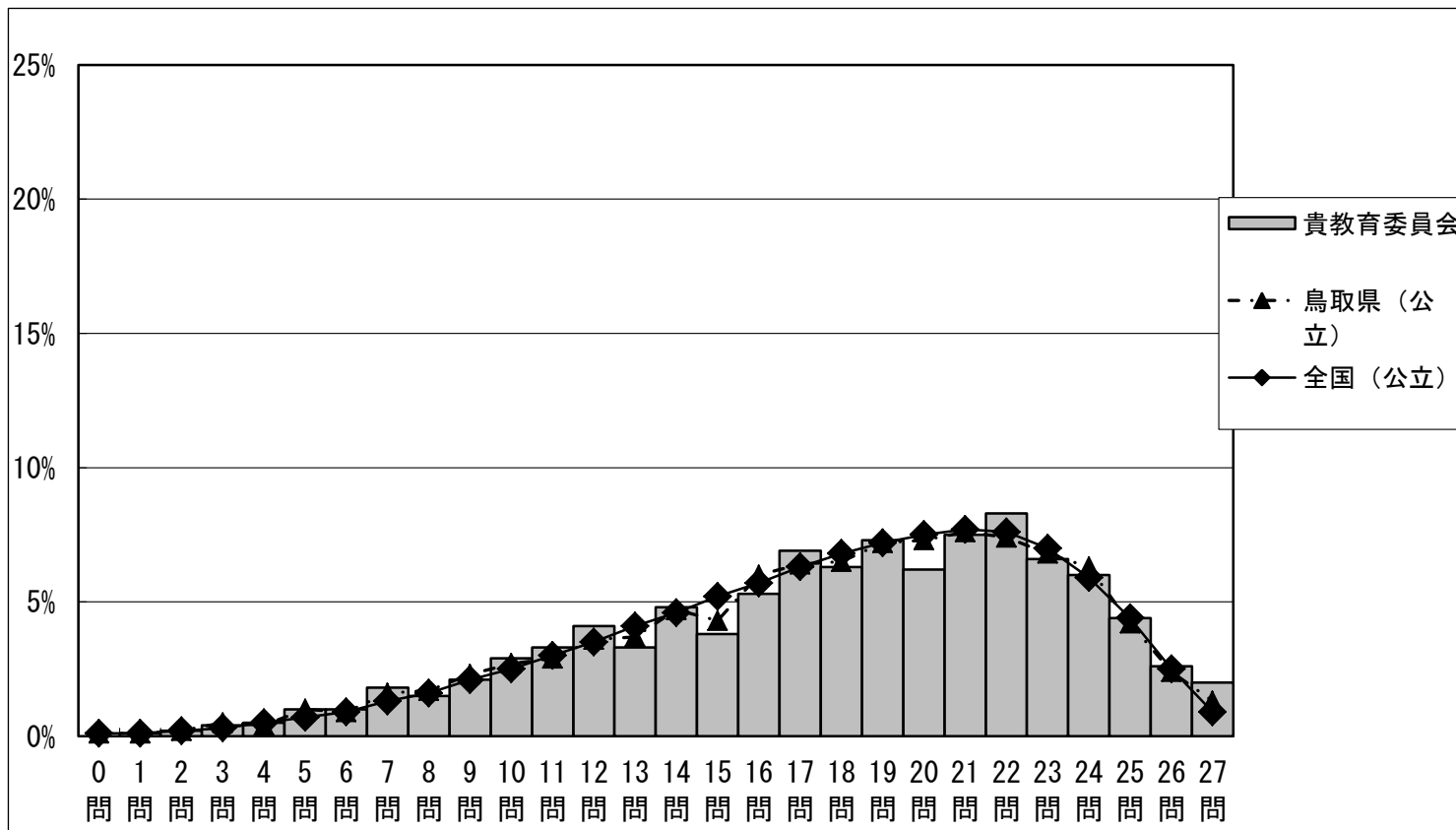
※平均正答率は、全国平均をやや上回っています。
 ・正答数の分布は、全国と比べ31問以上正答した生徒の割合が高い状況が見られます。

【中学校3年 数学B】



※平均正答率は、全国平均をやや下回っています。
 ・正答数の分布は、4問～7問正答した割合が低く、二極化の状況が見られます。

【中学校3年 理科】



※平均正答率は、全国平均をやや下回っています。
 ・正答数の分布は、全国とほぼ同じです。

(4)子どもたちの学習や生活の様子 —児童生徒質問紙調査より—

＜小学校6年生＞

- 自己肯定感を問う質問で、肯定的な回答をした児童の割合が、本市経年結果と比べて高い割合でした。
- 家庭学習の取組状況を問う質問で、肯定的な回答をした児童の割合は、全国と比べて下回りましたが、本市経年結果と比べて高い割合でした。
- 家庭で学校のことを話題にして会話するかどうか問う質問で、肯定的な回答をした児童の割合が例年と同様に高い割合でした。
- 話し合い活動を通して思考を深めたり広げたりする取組を問う質問で、肯定的な回答をした生徒の割合は、本市経年結果と比べて高い割合でした。
- ほとんどの児童が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。
- ほとんどの児童が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。
- ほとんどの児童が、朝食を毎日食べています。
- ほとんどの児童が、算数の勉強は大切だと思っています。
- ほとんどの児童が、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っています。
- 新聞を読んでいる(週に1～3回以上)児童の割合が全国平均よりも高いですが、22.4%にとどまっています。
- 算数が好きかどうか問う質問では、肯定的な回答をした児童の割合が本市経年結果と比べて低い割合でした。
- 国語A・算数Aの解答時間が十分かどうか問う質問で、肯定的な回答をした児童の割合が、本市経年結果と比べて低い割合でした。

＜中学校3年生＞

- 自己肯定感を問う質問で、肯定的な回答をした生徒の割合が、本市経年結果と比べて高い割合でした。
- 家庭学習の取組状況を問う質問で、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比べて下回りましたが、本市経年結果と比べて高い割合でした。
- 家庭で学校のことを話題にして会話するかどうか問う質問で、肯定的な回答をした生徒の割合が例年と同様に高い割合でした。
- 話し合い活動を通して思考を深めたり広げたりする取組を問う質問で、肯定的な回答をした生徒の割合は、本市経年結果と比べて高い割合でした。
- ほとんどの生徒が、学校の規則を守ろうとしています。
- ほとんどの生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。
- ほとんどの生徒が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。
- ほとんどの生徒が、朝食を毎日食べています。
- ほとんどの生徒が、数学ができるようになりたいと思っています。
- ほとんどの生徒が、国語A・数学A・理科の解答時間が十分かどうか問う質問で、肯定的な回答をしています。
- 新聞を読んでいる(週に1～3回以上)生徒の割合が全国平均よりも高いですが、19.0%にとどまっています。
- 数学が好きかどうか問う質問では、肯定的な回答をした生徒の割合が本市経年結果と比べて低い割合でした。
- 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるかどうか問う質問では、肯定的な回答をした生徒の割合が本市経年結果と比べて低い割合でした。

【全国と米子市との比較で特徴的な評価項目】

肯定的な評価項目(全国との差が+5ポイント以上)	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。【+10.3】 ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。【+15.9】
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。【+7.2】 ・新聞を読んでいますか。(週1～3回以上)【+5.1】
否定的な評価項目(全国との差が-5ポイント以下)	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(1時間以上勉強している)【-5.2】 ・調査問題の解答時間は十分でしたか。(国語A)【-6.2】 ・調査問題の解答時間は十分でしたか。(算数A)【-5.9】
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業の予習・復習をしていますか。【-8.7】 ・1, 2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。【-7.1】

3 結果を受けて

<学校では>

<小学校6年生>

国語では、基礎的・基本的な知識・技能の習得についての指導の成果が現れています。ただ、主語と述語との関係に注意して文を正しく書く問題や、目的・意図に応じ内容の中心を明確にして詳しく書く問題等に若干の課題が見られました。算数では、直径と円周の関係について問う問題や、折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題、合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に条件に合う図形を見出す問題、示された考えを解釈し条件を変更して数量の関係を考察し分配法則の式に表現する問題等の理解が不十分でした。ただ、算数の勉強は大切であるという意識や、問題の解き方が分からないとき、あきらめずいろいろな解き方を考えてみる意欲、解き方や考え方が分かるようにノートに記入しながら学習に向かう姿勢といった学びに関する項目は良い傾向にあることが分かりました。理科では、人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する問題や、電流の流れについて予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題、質量保存の法則を食塩を加えて体積が増えた食塩水に適用する問題等の理解が不十分でした。ただ、理科の勉強は大切であるという意識や、理科で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つであろうという意識等、理科に対して意識は良い傾向にあることが分かりました。

以上のような状況を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するために、一層の習熟が図れるような繰り返しの指導、個に応じたきめ細かな指導を充実させる必要があります。あわせて、既習内容を活用したり、新たな課題を探究したりする学習を通じて、知的好奇心を喚起し、学習のおもしろさを感じたり、自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に取り組んだりできるよう、指導の手立てを工夫していく必要があります。また、日頃の学習から、解答を求めるだけでなく、その根拠や自分の考えをしっかりと表現する力を育てていく必要があります。そのために、友達と解決方法を吟味・検討するといった対話的な学習も推進していきます。

<中学校3年生>

国語では、基礎的・基本的な知識・技能の習得についての指導の成果が現れています。ただ、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文章を書く問題や、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題等に若干の課題が見られました。数学でも、基礎的・基本的な知識・技能の習得についての指導の成果が現れています。ただ、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明する問題や、与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理する問題等に若干の課題が見られました。理科でも、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する問題や、化学反応を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明する問題、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題等で若干の課題が見られました。

以上のような状況を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するために、一層の習熟が図れるような繰り返しの指導、個に応じたきめ細かな指導を充実させる必要があります。あわせて、既習内容を活用したり、新たな課題を探究したりする学習を通じて、知的好奇心を喚起し、学習のおもしろさを感じたり、自ら課題を見つけ、その解決に向けて主体的に取り組んだりできるよう、指導の手立てを工夫していく必要があります。また、問題解決的な学習過程の中で、生徒同士の対話的な時間をこれまで以上に保障しながら、自分の考えを論理的に説明する力を一層育てていく必要があります。

<小・中学校共通>

- 家庭と連携をしながら、家庭での学習習慣や生活習慣の確立に努める必要があります。
- 児童生徒の自己肯定感がさらに高まるよう、学校、家庭、地域が一体となり、成長を支援していくことが大切です。
- 単年度の結果のみならず、これまでの12年間の経年結果をもとに、各学校の課題の傾向を明らかにし、今後の取り組みに生かしていく必要があります。
- 小・中学校が児童生徒の学力や生活習慣における課題の傾向を明らかにし、12年間の内容を系統化し、一貫した指導を行っていけるよう、小中一貫教育を推進していきます。

<家庭では>

児童生徒の学力の定着を図るために、以下のような取り組みをお願いします。

○基本的な生活習慣を身につけさせましょう。

→あいさつや食事、睡眠、朝食の摂取など規則正しい生活リズムを身につけると、児童生徒の本来持っている力が高まります。

○家庭で学習する習慣を定着させましょう。

→中学校区で配布されている家庭学習の手引きを参考に、家庭で学習する時間(目安)を見直してみましょう。
→小学生は、学年段階に応じて宿題や授業の予習・復習などに主体的に取り組むこと、中学生は、計画を立てて主体的に学習することで、幅広い学力が定着します。

○新聞を読む習慣を身につけさせましょう。

→学校の図書館に、児童生徒を対象とした新聞などもあります。世の中の動きがわかり、社会的なものの見方や考え方が育まれるとともに、語彙力や文章表現力が身につきます。

○テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間を少しずつ減らせるよう、家庭で話し合ったりルールを決めたりしましょう。

○日常生活の中で社会のルールやマナーを身につけさせましょう。

→思いやりの心や社会性などの豊かな心を育むことができます。

○家庭での読書をさらに勧めましょう。

○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加させたり、郷土の自然や文化にふれる体験をさせたりしましょう。

これまでの12年間の調査結果から、引き続き、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、知識・技能等の活用を図る指導の充実が大切であることがわかりました。また、自己肯定感や規範意識が高い児童生徒、携帯電話やスマートフォン、インターネットに依存していない児童生徒の学力が高い傾向にあることもわかりました。

米子市教育委員会としては、この12年間の調査結果と他の調査結果を関連させて考察した上で、今後も児童生徒の学力向上に向けて取り組んでいきます。また、学習習慣や生活習慣の確立が学力の定着に極めて重要ですので、今後さらに学校と家庭とが連携できるような取り組みを進めていきたいと考えています。